

第3回 河内長野市総合計画（第3部会） 議事要旨

日時:令和7年2月20日(木)

午前9時30分から

場所:501会議室

1. 開会

○事務局あいさつ

2. 議事

(1) 基本構想（案）について（協議）

→事務局より資料1・2に基づき基本構想（案）について説明。

<質疑>

嶋田部会長:皆さんで議論していただきたい。かなりこなれてきた。素案の段階では驚く表現もあったがトゲが抜かれ、おさまりがよくなってきた。今まで議論してきた内容も取り入れられている。なにがしか自分の思いが含まれているという印象である。難しい文章というよりは河内長野を知ってもらって、再発見をしてもらって、市民に愛でてもらうためのパンフレットの的なものだと思っている。外向きに河内長野を知ってもらえるものとしても利用できると思う。こういう方向で進めればよいと思っている。3回目の部会となる。次はいよいよパブリックコメントとなる。忌憚ないご意見をいただければ良い。

若林委員:全体的なところで、今までバラバラに持っていた思いをまとめてもらっていると感じた。強みをどのように活かすか。お金のある自治体は良いが、自治体としての強みを具体化して勝負する具体策を示してほしい。今後4局体制になる。実行計画をたてる際は、現場の意見を取り入れることが大事である。計画に落とす段階では部局の意見を求め、言い訳をさせない計画を作してほしい。また、資料1の11ページにある、「支える側」になれるというのはキーワードだと思う。「ボランティアポイントを与える」などの具体的な施策にまで落とし込んでほしい。また、市民の視点を中心に作っているのが原因だと思うが、それ以外の視点が抜けている。特に外からみた人たちが河内長野をどう見ているのかの視点が漏れていると感じる。

鉾谷委員:基本構想からどう計画に落とすのかは喋る内容ではないと思っている。これを世に出すにあたって、まだ引っかかるところはある。引っ掛かりがあると頭に入りづらいところがあると思う。数点指摘する。資料1の11ページ、土砂崩れなどの災害対策や、というところは良いが、医療・救急などの基盤づくりが進み、というのは、現状進んでいないという印象を与えかねない。検討いただきたい。

資料1の15ページの「推しと出会えて」のところ、ダンスチームや吹奏楽団とあるが、吹奏楽団、という表現が特定されすぎている。音楽を楽しむ人たちの集団はいろいろな形があるので上手い表現があるとよい。全体を通して、私たちがやっている活動を後押しする内容があったので、全体的には特に問題はない。

大山委員：鳥の目でみると、河内長野の問題は15～24歳の若者は、現在の25～34歳になっている若者と比較すると、39%減少している。関連して、20～39歳の出産適齢の女性も10年間で30%弱と大幅に減っている。今年、生まれたこどもも非常に少ない。これを置いて総合計画をたてても意味がない。河内長野の人口推計も非常に少ない。危機感がない計画は意味がない。今後若い人の流出をとめる、若い人を呼び込む施策がどういうものか書かないといけない。根本的なことが抜けているのが大問題だと思う。市民に対して、これで河内長野の将来が安心だと思わせられないと思う。大きな課題に向かって役所が本気になって取り組んでいるというのをみせないといけないと思う。

山口委員：若い世帯が引っ越してきていると書いているが、本当にそうなのか、と懸念している。こういう問題を書かれても、実際にどのように増えてきているのかがわかってこない。小学校で昔遊びなどの活動をしているが、こどもが減っていると実感している。こどもが増えているとどう知らせていくのか。空き家率が少ないが少ないと書いてあるが本当に空き家率が少ないのか。いろいろと考えを入れているが、わからないところが沢山ある。

堀川委員：よくできていると思う。法的な縛りはないので短いものを作成できるようになったが、ネガティブなことを書いても読んでもらえない。ポジティブな将来の目標を示すべきだと思う。文言については精査する面があるかもしれないし、地元食材を使ったBBQというのもどういうものがあるのか、とは思ったが、短いフレーズで発信すべきだと思うので全体的にはこれで良いと思う。

竹原委員：キャッチコピーについて、イメージしやすいものとしにくいものがあるという印象を受けた。「ホテルも・・・」は、想像しやすかった。誰が見てもわかりやすいものが良い。

上尾委員：千年のまち、というのは良いキャッチコピーだと思う。基本構想の4ページについて、地盤が強い、防犯が強い、というのは素晴らしいが、「これがあるから人口が増えている」「流入が増えている」というのをPRしていったら良いと思う。金剛山によく上っているが、河内長野からバスで金剛山に行く人が多い。金剛山の入口としての河内長野という目線もあるとよい。人口動態についても、河内長野としてこういう姿勢が、というのを示されればよい。

池田委員：基本構想ということなので、全体的にはこれでよいと思う。細かいところだとBBQというが、なんの肉があるだろう、と引っかかった。救急などの地盤については「さらに」を入れればよいと思う。防犯・防災、どっちが前か。防犯が

先の方が聞きなじみがある。感嘆符の代わりに句点に変えたということだが、鍵カッコのなかに句点が入っているのは見にくい。ついている鍵カッコとついていない鍵カッコが混在しているところが気になる。ない方が見やすいのではないか。2-3 について、歳の表現を正式なものにしてほしい。スポーツ選手・アーティストはどちらかというと単体なのに「大人たち」と書いてある。たち、が無くて良いと思う。また、ニュータウンとあるが、どこを指しているのか。市内にニュータウンはもうないと思う。ニュータウンという言葉には違和感がある。「給食カレー」については、説明を聞いたからわかったが、説明を聞かないと「給食カレー」という言葉が入ってこない。細かいところばかりだがそんなところである。

三村副部長： 前回の総合計画について、富田林も橋本も、財政状況が頭に入っているが、河内長野の特徴は平地がなく山があり、大阪市から近い。人口が増えていない。和泉中央のようなまちを作ることでもできていない状況である。今回の基本構想では、ここに描かれているような、市の特徴を書くのがよいと思う。なぜか人がほんわかしている、など。そういった特徴を示す文言が並んでいる。否定的な意見ももっともだが、これをやることによって、10 年後の人口を増やしたいと思っている。「ここがダメだ」とばかり書いてあるのが前の総計だった。今よりはよかったはずなのに、「将来がダメ」と書き続けられていた。こういうポジティブな形が良いと思う。マイナスを頑張っても 0 にしかならない。いかにマイナスをカバーするプラスを作るかが大事である。地盤、自然、人など、ワークショップで見えてきたものがある。20~30 人のワークショップであっても、同じような意見が出てきた。そういった市民の意見が踏襲されていると感じた。少し網羅的だとは思いますが、今後、強みを活かした政策をしてもらえると考えている。どうなるか期待している。人もそうだが、「ダメだ」といっている人には人がついてこない。この総合計画で「河内長野はすごい」とみんなが思えばよい。マイナスはもちろんあるが、ポジティブなマインドを持つことが大事だと思う。また、自分としてはカレーが入るのが嬉しい。16 歳との約束なので、これが入ってよかった。

嶋田部長： 皆様からいただいた意見を反映できればよい。今、一国の経済が沈没しかけている。大阪全体からみれば確かに人口動態は芳しくない状況だと思う。そうならないようにすれば、という発想は必要。だが、もっと田舎の市に比べれば良い状況。だとすればいろいろな可能性がある。自分は四国の田舎出身だが、「もっと生かせばいいじゃないか」というところも沢山ある。2,000 万円で一軒家が購入でき、大都市も近い。そういった魅力を伸ばしていくのが大事である。それを共有するのが大事。ひっかかる文があってもむしろ読み込みにつながれば良いと思う。とっかかりの文章としてこの形にしたのは高く評価したいと思う。こんな感じで良いのではないかとということでご理解いただいたのではないかと。事務局か

らコメントあれば。

市事務局：今後の進め方について、議会で承認されれば、来年度の新しい組織の目標に構想を取り入れて計画策定を進めていく。ワークショップなど、インナーブランディングと同様に庁内の現場に浸透させることを進めていきたい。鉾谷委員のものは、進めていきたい。大山委員・山口委員の話は、大きな話で避けて通れないと思っている。市として進めていけないと思っているが、今まで人口が減ってきているというのは間違いない。しかし、転出による減少が死亡による減少に変わってきている事実がある。転出量はかなり減っている。今年度は二桁でおさまり、転入は微増している。社会動態の変化があるということは市として捉えていきたい。死亡が増えるのは空き家が増えるということ。過去は空き家が府下もっとも少ない比率だった。徐々に空き家が増加している。そこに転入が進んでいる状況である。空き家への転入の循環を増やしていくことが大事。大阪狭山市と河内長野はどう違うのか、という議論をしている。大阪狭山市は教育のまちと言われている。何が違うかということ、市民自体の大阪狭山市に対するプライドがより高いのではないかと分析している。対して、河内長野では、自嘲気味な雰囲気が浸透しているのではないかと分析している。その点を変えたいと考え、今回のような形の基本構想にした。転入は今は、安くて広い、という考えで転入する人が多い。だが、今はどの不動産業者も「物件が売れないことはない。物件探しに苦労している。」と言っている。また、「安くて広いのならここに住みたい、というので転入してきている。」と不動産会社からは聞いている。ポジティブにまちをとらえることが大事。一番やりたいのは、どこまで目指すのかを知らせたい。一番わかりやすいのでは、「サクセスフルなサステナブル」。今、なかなか限界を感じていることはある。自治会活動や、社会インフラの維持、そういったものを持続可能にしていく、ということを打ち出している。庁内でも「こんなことができるのか」という声もあるが、市民に伝えて実行していくことが大事だと思う。おいしいカレーを作るまちに向けては、農業が維持されているなどいろいろな要素がある。本当にそこを目指していくのと、「現実的」なところを目指すのでは大きく変わると思う。人口の変化についても市民に説明している。空き家の状況も市民に伝えられればよい。総合計画の進行管理のなかで行っていききたい。竹原委員の「イメージのしやすいもの」というのも大事だと思う。キャッチコピーと説明が今あるが、それを補う説明を QR コード等で伝える。知りたい人に対しては詳細を補足説明するようなこともやっていきたい。説明文に加え、できるだけ理解してもらえ取組を進めていきたい。池田委員の話も、堀川委員の話も合わせて、説明の中で加えていきたい。

嶋田部会長：学生に、大阪に 30 分くらいで 2,000 万円で持ち家が持てるときいたら「ワンチャン住みたい」という話が出た。東京だと持ち家という発想が無いが、都会の

近くで、子育てものびのびできるのであれば選択肢に入ると思う。今後の売り込み次第だと思う。そうするとやはりポジティブな発信は重要である。メッセージを伝えていってほしいという思いを強く持っている。

3. 事務連絡

→市事務局より、事務連絡について説明

4. 閉会